

世界遺産

丹生都比売神社

ライトアップの夕べ

平成三十年九月十五日

午後五時より

【特別企画／対談】

『日本人の神様って何？』

～丹生都比売から楠公さんまで～』



産経新聞特別記者編集委員
安本寿久氏



丹生都比売神社宮司
丹生晃市氏

日本は、八百万の神々がいらっしゃる国です。山には山の、川には川の、海には海の神様がいて、私たちの暮らしを守ってくださっているという国柄に加えて、歴史上の人物を少なからず神としてお祀りしてきたからです。これほど神様の身近にいらっしゃる国は世界でも例がありません。また、神話に登場する神様は個性豊かで、時には人間のように愚かな過ちも犯してしまう存在として描かれています。こうした神々は日本人にとってどういう存在なのでしょう？神話の新聞連載を6年以上続けて来た新聞記者をお招きして、日本人の「信仰の源泉がある」として世界遺産になっている紀伊山地の神社で秋の夜長に考えてみます。

【奉納演奏】雪月花

『日本の古き良き文化を歌で語り継ぐ』



大阪府河内長野市で誕生したGt.&Vo.ユニット雪月花。丹生都比売神社における奉納演奏は今回で3度目を迎える。日本で古くから歌われている童謡唱歌から、雪月花が拠点を置く河内長野市所縁の歴史的英雄“楠木正成公”を歌った自身のオリジナル曲（Requiem～大楠公へ捧ぐ～）まで、『音楽というツールで日本の古き良き文化を語り継ぐ』をテーマに各地で精力的に活動を続けている。高野山金剛峯寺、吉野山金峯山寺など、世界遺産の地で奉納演奏を経験した雪月花が送る、秋のお月見コンサート。幻想的にライトアップされた美しい境内で癒しの音楽をお楽しみください。

【演奏予定曲】

童謡唱歌・子守唄メドレー、高野街道他雪月花オリジナル曲

後援：産経新聞社